

到着。

仕事は伐採、枝焼き等をする。入浴は週一回シャワーを浴びる。そのとき衣服を滅菌する。衣服は軍隊当時の防寒服を着せられて、大体それで作業に出た。

途中、入院して、退院後炊事勤務を二カ月する。その後は元の仕事の伐採に帰る。末口四五センチメートル、長さ五メートル五〇センチが一クーボ、それを二人で四クーボの割当作業です。割当一〇〇%できない場合は、普通三五〇グラムのパンを三〇〇グラムに減らされる。苦しい事ばかり、楽しい事は一つもなかった。

軽い営内作業もする。身体が三級になると二〇%の恩典があり一〇〇%に認めてもらえる。四級は営内作業、健康管理の事は思わなく、病気になるって入院したいと思った。

一日三回、骨のスープ。肉等は食わず、十日に一回くらい、ニシンの五センチくらいのを食べた程度。冬は草もないので松の木の皮を食べるか、ソ連人の捨てたジャガイモの皮を拾って食べた。また、ゴミ

捨て場から骨や野菜のくずを拾って来て、焼いたり煮たりして食べた。

週に一回、夏はゴロゴロしており、冬は午前一回、午後一回、薪取り日が寒くて大変だった。

うす暗く、二段ベッドなので、下がちょうどよければ上は熱い。夜寝る前に洗脳教育を受けた。眠くて困った。聞いていないと、「反動分子」で、帰りを遅らせるとおどかさされた。

零下五〇度もある日、夜間作業をさせられた。生きていればいつか帰れると思ひ、信念を持って過ごしていた。

シベリア抑留を思う

長野県 桜井 義久

大正十四（一九二五）年八月三日、長野県上伊那郡富原村桜井に生まれる。

昭和十五（一九四〇）年三月、富原村立富原小学校

を卒業。同年四月より昭和十九年三月まで東京の荏原電業社に勤務。この間に私立の東京工業学校を卒業。

昭和十九年五月に国鉄に入社、電気保安、変電の仕事に従事する。

昭和十九年十一月二十五日、東部第七二部隊に入隊。一カ月後には北滿牡丹江の満州第七五八九部隊に転属となる。

昭和二十年六月、第一期検閲と同時に一等兵に昇進する。同時に、東滿各地の電話線の撤収作業の任に当たる。この間、各地の開拓団の方々に大変優遇していただき、お世話になった事は忘れられない。そうこうしているうち終戦となり敦化に集結、武装解除を受ける。

帰国の日を一日千秋の思いで待っていたやさき、二〇〇〇人単位の臨時作業隊が編成される。長い年月を経過し詳しいことは忘れたが、一週間くらい行軍し、名も知らない駅に着く。この行軍の間に開拓地を追われ、着の身着のままですまよう開拓団の人々を見たとき、お世話になった方々もいるであろうに何もできな

い情けなさが身にしみた。

やがて我々の乗る列車が入る。有蓋の貨車を、真ん中を通路に両側へ二段の床を造り、これに一車両五〇人が乗る。日本へ帰ると思っていたのに、十日くらいたった頃、鳥も飛ばないと言われたシベリアの果てに着こうとは思っても寄らなかった。

ここでタイセット第五収容所と呼ばれる天幕の宿舎に入り、収容所生活が始まる。食糧は原穀の高梁の粥が少量、いつも空腹の状態が続く。おまけにノミ、シラミ、南京虫に攻められる。

作業は第二シベリア鉄道の建設作業が主体で、山林の伐採、れんが工場等、多種にわたった。いずれも重労働であり、ノルマを強要された。しかし、体験したこともない寒さと空腹に体も思うようにならず、ノルマどころではない。私は過労と食糧不足により栄養失調になり入院する。病院といっても収容所内の一部を使用した場所であった。若かったこともあり、暖かくなる頃には体調も回復し退院することができた。退院後の作業は、山林へ伐採作業に行く事も多かった。山

には野草や木の芽、また、栗茸に似たキノコがあり、これ等を探って腹の足しにした。この近くのコルホーズのジャガイモ畑で、掘り残しのイモを拾ってきたりすることもできた。

昭和二十二年の夏頃より、体の弱い者から東京ダモイといって出ていくようになる。我々の順番はなかなか回ってこない。何人が集まれば、懐かしい故郷の話、ことに郷土料理の話に花を咲かせ、故郷をしのんで耐えるしかなかった。

やがて民主教育が始まり、民主化しない者は日本には帰さないと言われる。作業終了後、アクチーブといわれる連中が来て民主化を説く。その果てには、偉大なるスターリン閣下に感謝状を送る話まで出る。心ならずも日本へ帰るためには賛同せざるを得なかった。

四年目の夏が近づく頃、ようやく帰国の時が来る。つらく長かったタイセットでの収容所生活に別れを告げ、列車でナホトカへ。ここで船を待つこと二十日余、迎えの引揚船に乗り舞鶴へ着いたのは、昭和二十四年八月二十四日。待望の帰国の夢をようやくかなえ

ることができた。

帰郷後しばらくして、同年十月より国鉄復職もかない、定年まで勤務することができた。

抑留生活を顧みて

長野県 金原 正

大正十二（一九二三）年四月二十日、長野県諏訪郡川岸村に生まれる。

昭和十四（一九三九）年三月、村立川岸小学校高等科卒業。四月十七日、満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所入所。

同年六月二十七日、満州国三江省勃利県勃利義勇隊訓練所入所。

昭和十五年十一月、牡丹江省綏陽県老菜営義勇隊訓練所入所。

昭和十七年十月三日、北安省通北県鶏走河第二次曙義勇隊開拓団に入植す。